



大館市

「ハチ公のふるさと」

秋田県

が目指す未来

秋田県大館市 ～“イベント”から見えてきた新たな道～

コロナ禍が落ち着き、多くの祭りや行事・イベントが復活、各地ににぎわいが戻ってきた。市町村等が実施するイベントは、地域を内外にアピールする格好の機会である。忠犬ハチ公の生誕地で知られる秋田県大館市は、大館の認知度アップと交流人口の増加を目指し、「ハチ公生誕100年」のイベントに取り組んだ。

コロナ禍での入念な準備を経て、関連自治体や多くの企業との連携の中から創出されたイベントである。得られた成果を取材した。



「ハチ公のふるさと」が 目指す未来

イベントから見えてきた新たな道

あきたいぬ ●秋田犬・ハチ公が結んだ“ご縁”

日本、いや世界で一番有名な犬といつてよいだろう。銅像になっても、帰らぬ主人を東京の渋谷駅で待ち続けている“ハチ公”である。1923年、ハチ公は大館で生まれた。100年後の2023年11月11・12日、ニプロハチ公ドーム(大館樹海ドーム)で「HACHI フェス in 大館」が開催された。渋谷区や飼い主だった上野英三郎博士の出身地・三重県津市などの関係機関・団体をはじめ、趣旨に賛同する数多くのパートナー企業が参加した。会場にはハチ公の生涯をまとめたパネル展示やグッズコーナー、飲食店、参加企業などのブースが並び、秋田の行事やステージイベントも開催。大館の街は、多くの人、そして秋田犬でにぎわった。これより100日前の8月5・6日には、渋谷区で「HACHI フェス in 渋谷」が開催され、多彩なイベントが展開された。

これらの取り組みは、2022年5月に「渋谷区・大館市交流促進協定」を結んだことを機に具体化し、「ハチ公生誕100年事業」(「HACHI100プロジェクト」)実行委員会が立ち上がった。「キックオフはハチ公にちなんで、8月8日10:08でした」と話してくれたのは、実行委員長を務めた大館市観光交流スポーツ部長・阿部拓巳さん。

「イベントの成功はもちろんですが、私たちが大切にしたのは渋谷の皆さんです。皆さん方が渋谷でハチ公を守ってくれていたからこそ今がある。大館にとって本当にありがたいことで、ハチ公をご縁に、唯一無二のパートナーとして良い関係を築いていきたいと考えました」。



海外では Akita と言えば「秋田犬」。かつては「大館犬」とも呼ばれ、「三角の立ち耳」「巻尾」「たくましい足」が特色で、主に狩猟犬として用いられた。後ろはニプロハチ公ドーム。

イベントは2022年11月の99年生誕祭で幕を開け、2023年11月のメインイベントまで、大館市と渋谷区から情報を発信し、ハチ公を愛する思いを軸に交流の輪を広げていった。参加企業や多くの有志の協力で、イベントはもちろん様々なプロモーションも大成功という結果となった。

イベントを通じて強まった渋谷区との絆は、その後も、観光・文化・産業など様々な場面で深化を続けている。

●“きりたんぼ”で人は集まるのか？

これまでも大館市は、ニプロハチ公ドームでの「本場大館きりたんぼまつり」を成功させている。2012年4月、この年10月の開催に向けて大館商工会議所を中心に若手民間事業家で実行

大館市 人口67,016人、世帯数31,381戸(令和5年10月末現在)

秋田県北部に位置し、北は青森県に接する。中央部を横断する米代川が開いた平野を四方から山地が取り囲む。山は日本三大美林の一つと謳われる秋田スギを産し、平野部は有数の米どころ。比内地鶏や伝統的工芸品の曲げわっぱでも知られる地域である。平成17年6月20日に大館市・比内町・田代町が合併し新「大館市」が発足。明治以降、多くの鉱床が発見され、鉱石を運搬するため県内でいち早く鉄道網が整備され、鉱山関連の企業も多く立地し発展してきた歴史をもつ。



委員会を組織し、阿部さんが事務局長を務めた。「ドームでの開催なので8万人の集客目標を立てましたが、きりたんぽでそんなに人が集まるわけがないと、冷やかな空気はありましたね」と当時を振り返る。目標達成のためには大館市の3人に1人、人口80万人の近隣エリアから7%集客すればよいと試算し、弘前・青森・秋田・盛岡各市を中心に情報を発信、集客を担保するために前売券を用意し、市内と全国展開のコンビニで販売、1万1,000枚以上を売り上げた。奔走した結果、10月13日のイベント初日の午後には完売する店が続出。2日で8万6,000人を集客した(前年の集客は2日で1万3,000人)。集客は6.6倍に膨れ上がり、イベントが集客、ひいては地域活性化の起爆剤になることを証明したことで、飲み歩きイベントや肉の博覧会などの新たなイベントが誕生するきっかけとなった。

また、この成功体験は、2016年4月、大館市・北秋田市・小坂町(後に上小阿仁村加入)連携による行政区域を超えた地域連携DMO^{*}(一社)秋田犬ツーリズム^{*}の設立につながった。設立と同時に秋田犬を核とした動画を制作して発信したところ、国内外で話題となり、秋田犬=秋田県北部という認知度が急上昇、折からのインバウンド需要の好調を追い風に集客は飛躍的に伸びた。

「2019年までは絶好調でしたが、2020年に入ってからはずっとでました」。新型コロナウイルスの世界的流行である。「でも」と阿部さんは続ける。「時間ができたおかげで、観光のあるべ



(上) 渋谷スクランブルスクエア14階「ハチふる」(協力企業)
(右) 渋谷エクセルホテル東急(協力企業)

HACHI100 パートナー
パートナー企業・団体は県内はもとより全国の195社に及ぶ(2023年11月時点)。



き姿を考え、これまでの業務を見直し、DMOやハチ公生誕100年の事業などを建設的に考えることができました。コロナ禍だからこそ、民間の優秀な人材の協力を得ることもできたと阿部さんは語る。

緊急事態宣言が解けた2020年10月、観光庁の協力を得て、大館市で「第1回秋田広域観光フォーラム」を開催した。フォーラム関係者200人全員に対して集団抗原検査を行うことで、実施にこぎつけたという。「地元の保健所などは大変だったと思いますが、コロナ禍のもとでも、すぐにスタートダッシュできるよう、あらゆるところにアンテナを張り巡らせて準備していました。フォーラムの実現はその姿勢の結果である。

^{*}DMO「Destination Management/Marketing Organization」の略。官民の幅広い連携によって観光地域づくりを推進する法人

「青ガエル」(東急の旧型鉄道車両の通称)は渋谷ハチ公前に展示されていたが、2020年11月から、大館市の「秋田犬の里」の敷地内に設置されている。



1~4 HACHI フェス in 大館 (2023年11月11-12日。コンセプトはハチ公が紡ぐ渋谷と大館の絆。1 フェス中は渋谷ハチ公広場と中継につながっていた。12日は渋谷のハチ公の銅像の周りに1日限定で「部屋」が設置され、飼い主を待ち続けたハチ公につかの間の「休息」が与えられた)
5 同時開催の「新・秋田の行事 in 大館」では、秋田県を代表する祭りが披露され会場を盛り上げた。6 大館市役所玄関ホールではぬいぐるみがお出迎え。7 本場大館きりたんぽまつり。まつり自体は1973年から続くイベント。屋外で行われていたが2012年にドームでの開催に挑戦。11のきりたんぽ専門店が集まり合計6万食を売り上げた。8 きりたんぽは、ご飯をすりこぎですりつぶし、芯にした棒にぎりつけて焼いたもので、古くは山で働くマタギや木こりの保存食と言われる。セリ、比内地鶏、ごぼう、きのこ、ネギなどととも煮て食する。9 新たなイベントも誕生した(肉の博覧会 in おおだて: 2023年6月3・4日)。





1



2



3



4

1 黄金の秋田犬親子像お披露目(HACHI フェス in 大館)。(株)SGCが約850枚の金箔を使用して製作した。2 大館曲げわっぱは、スギやヒノキなどの生の木の板を特殊な技法で曲線に曲げて、継ぎ目を山桜の皮で綴じ、底をつけた器。マガキがスギの木を曲げ桜の皮で縫いとめて作った弁当箱が始まりともいわれる。3 秋田犬の里。大館駅前立地する市の観光交流施設。物販に加え、秋田犬展示室では毎日数匹の秋田犬が“出勤”して来訪者のお相手をしてくれる。4 望郷のハチ公像と秋田犬会館。秋田犬保存会の本部があり、2・3階の秋田犬博物室は犬種団体が管理する日本で唯一の博物館となっている。

● “曲げわっぱ”が海を渡る

「人口減少によって内需の増加が見込めない中、海外の需要を獲得したい。大館市は、世界遺産の白神山地、北東北の縄文遺跡群、十和田八幡平国立公園という宝に恵まれており、そして何より、世界的に知られた秋田犬発祥の地です。可能性は大いにあります」と語る阿部さんの視線の先には大館の未来像が浮かび上がっている。

「HACHI フェス in 大館」で、ひときわ目をひく展示物があった。「黄金の秋田犬親子」である。金の精錬から製作・販売を営む企業が、ハチ公生誕100年を記念して手がけたものだ。「2022年10月、パリで開催された“北前船寄港地フォーラム”に参加したのがご縁の始まりです。このとき金で作られた北前船が披露され、製作した会社と今度はぜひ秋田犬でという話になりました」と阿部さん。「パリでの感触がよかったので、2023年5月、EUの欧州委員会に曲げわっぱを持参したら『素晴らしい!』と評価していただきました。この縁がきっかけとなり、2024年春にイタリアで開催される国際家具見本市『ミラノサローネ』に大館曲げわっぱの展覧が決定したのです。また、アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)が2027年に建設する“ヨーロッパ マンガ・アニメミュージアム”のマスコットキャラクターに秋田犬を使いたいという話もいただき、大館市と研究所の間で基本合意書を交わしました」。

きっかけとなったパリのフォーラムは、2017年8月に発足した(一社)北前船交流拡大機構の

事業の一つである。機構には北前船に関連した海沿いの自治体や企業が多く参加しているが、2021年1月、北前船に限定することなく、内陸の地域も含めて参画できる(一社)地域連携研究所が設立された。大館市は岡山市とともにその組織の中核を担い、より広域の連携が広がりつつある。イベントや組織づくりで培ってきた交流は次々と未来につながる成果を生み出している。加えて、新たな動きが見えてきた。

「大館市には鉱山で発展してきた歴史がありますが、今、いわゆる“都市鉱山”といわれる家電や携帯電話のリサイクル事業が活発化しています。また、かつて物流の拠点であった大館貨物駅の『大館駅インランドデポ構想』も検討されており、これが実現すれば、リサイクル品を載せてやってくる貨物に、大館駅から農産物などの輸出品を載せて運ぶことができるというわけです」と、阿部さんは市の計画を話してくれた。

かつて大館の山奥に暮らすマタギや杣人(木こり)が狩猟犬として養った秋田犬や暮らしの中で使い込まれてきた曲げわっぱが世界に羽ばたき、かつて大館を活気づかせた鉱山技術や鉄道が新たな形で地域の次代を拓こうとしている。ハチ公のけなげな心が生誕100年の今も人の心を温め続けているように、大館市は次の100年を見据え、足元の地域資源を熱源として磨き上げている。

【取材・写真協力 大館市観光交流スポーツ部】



5

5 2023年10月11日、フランスアルザス地方のコルマルに2027年オープン予定の博物館「ヨーロッパ マンガ・アニメミュージアム」(MEMA=メマ)と交流促進協定を結んだ。